



VOL.18 2010年8月号



熱風大陸ロシア!



中部ロシアを中心に、カムチャツカ半島、極東地方などほぼロシア全域が異常気象による熱波に包まれています。テレビニュースでも連日、「山火事!」「猛暑!」と特別枠が設けられ、大きく報道されており、8月5日現在、被害が深刻化しています。8月5日時点で、約19万ヘクタールが焼け、火事による被害者は48名にのぼっています。これは、8月1日時点では、約10万ヘクタールであったのに対し、わずか4日の内にほぼ倍の土地が灰と化しているということです。

なお、山火事には大別して2種類あり。森林が炎をあげて燃える森林火災と、泥炭層(PEAT)がくすぶるようにして燃え広がる被害があります。首都モスクワの近郊にも泥炭層による火災があり、現在もくすぶり続け、風向きによっては都市部を黒煙が襲い、視界の悪さや息苦しさの原因となっています。



熱風大陸ロシア!



39	40	39	39	39	35	36
25	26	24	23	22	20	22

実際にはどの程度の猛暑ぶりなのかと、モスクワの週間天気予報(8月5日~11日)を見てみますと、中央アジアの天気予報かと勘違いをするほどの予報がなされております。

この暑さ+泥炭層の黒煙が重なることもありえます。暑さへの対処法はごく常識的なことが基本となりますが、なるべく日陰を選んで歩く、日中はできるだけ外出しない、水分を十分にとる、帽子を被るなど。これは、海外からの観光のお客様にも特にご注意いただきたいことです。トイレが近いと水分補給を控える傾向にありますが、この非常事態ですので、十分な飲水をお心がけください。

町の家電製品売り場からは、扇風機が姿を消し、クーラーの取り付け工事は、数週間の順番待ちの状況が続いております。元々、夏の暑さがあまり厳しくない地方ですと、エアコン設備がないところも多くございます。衛生・温度管理の行き届いていないような、レストランや屋台などにも注意が必要です。

新たな挑戦者 — 新天地での対決へ。

今回の南アフリカワールドカップで、世界的にもその名声を高めた本田選手は、モスクワCSKA所属。モスクワでの人気も高まっており、本田に対する監督の起用法にも物言いがつくほどです。現在、ロシア国内サッカーリーグの単独2位の位置につけており、1位のZENIT(サンクト・ペテルブルグ)を追っています。



4年に一度の祭典サッカーワールドカップが終わったあとに、日本から飛び込んできたのは、元日本代表でジェフ千葉所属の巻選手のロシアリーグ移籍のニュースでした。巻選手がプレーすることになるのは、ペルミの『AMKAR』というウラル山脈西側にあるチームで、すでにチームの公式サイトにも巻選手が登録されています。近い将来、CSKAの本田選手とAMKARの巻選手の日本人対決が見られるかもしれません。

<http://www.amkar.org/>

『プリンセス・マリヤ号』 St.Petersburg-Helsinki

今年から、運航が復活したサンクト・ペテルブルグとヘルシンキを航路で結ぶフェリー「プリンセス・マリヤ」号。(運航会社は、ST.PETERS LINE)。サンクト・ペテルブルグ発が、水・金・日曜の週3便、ヘルシンキは、月・木・土曜の同じく週3便となっています。所要時間は、9時間30分。(19:00発→翌08:30着(サンクト・ペテルブルグ着は、09:30)。船室は、デラックスを含め、5つのレベルがあり、最大収容人数1638人、積載可能車両395台という大きさです。船内には、複数のレストラン、バー、ショップ、カジノ、映画などのエンターテインメントが充実しています。



<http://www.stpeterline.com/en/>



<特集> 『ロシア伝統工芸品の故郷』 — ニジェゴロド州

ロシア旅行のお土産はいろいろありますが、おなじみのマトリョーシカをはじめとする素朴な伝統工芸品には今でも根強い人気があります。今回は伝統工芸品生産地として知られる沿ヴォルガ連邦管区を中心都市ニジニヴゴロド市とニジェゴロド州をご紹介します。

州都ニジニヴゴロドへはモスクワから東へ約440km、航空機で約1時間、鉄道では夜行列車で約7時間です。鉄道駅は今もソ連時代と同じゴーリキー・モスコフスキー駅です。街の中心はオカ川とボルガ川の合流点を望む高台に位置するクレムリンです。街の歴史は古く、13世紀より定期市『ヤールマルカ』(Yarmarka)で有名な交易・商業都市として発展してきました。

作家ゴーリキーの出身地に因みソ連時代は1932年~1990年までゴーリキー市と呼ばれ、自動車関連企業(GAZ)をはじめとする工業化が促進されました。現在は機械製造、鉄鋼、化学・石油加工、自動車関連、食品関連が主要産業です。なかでも硬質ガラス生産の国内シェアは97%を誇っています。市から北へ車で約2時間のところに伝統工芸品生産地セミョーフ市があり、このホフロマ塗・マトリョーシカ製造工場の生産は国内シェア50%を占めています。写真の特大マトリョーシカ(30組)をはじめ各種マトリョーシカと黒・金・赤のあざやかな彩色で有名なホフロマ塗を製造しています。また、同州内には繊細な模様が美しいカザコフスキー銀細工の産地もあり『ロシア伝統工芸品の故郷』のひとつと言えるでしょう。



(お写真ご提供: 宮城県 高橋直之様)



VOL.18 2010年8月号

NEW HOTEL IN MOSCOW ★★★★★



モスクワのレニングラード街道にマリオットグループのRenaissance Moscow Monarch Center Hotelが新しくオープンしました。地下鉄DINAMO駅から徒歩約15分の位置で、

MONARCH BUSINESS CENTERに併設しています。広く快適なロビー、清潔な部屋が用意されております。四つ星と五つ星の間くらいのレベルの印象ですが、欠点は、市内中心部から少々離れていること、周辺に見所などが少ないことです。Renaissance Moscow Monarch Center Hotel
31A, Leningradsky Prospect Tel: 7-495-995-0009
<http://www.marriott.com>

NEW HOTEL IN ST.PETERSBURG ★★★★★

シベリアのハンチ・マンシスクのユグラグループの新しいホテルが Санкт・ペテルブルグの中心地にオープン。ネフスキー通りの1本裏手のストレミヤナヤ通りにあり観光にビジネスに大変便利。また高級なホテルが多いネフスキー通り周辺の新しいホテルとしては貴重な3つ星ホテル。全49部屋(スタンダード、コンフォート、スーパーアの3カテゴリー)。「予算を抑えなければならない出張でも、市内中心地は譲れない」。そんな場合に、選択肢の一つとなるかもしれません。



Cronwell inn Stremyannaya
Address:18,Stremyannaya, St.Petersburg
Tel: +7-812-712-0678

ロシアなペーパークラフト。

「右の写真、何に見えますか？」
そう、 Санкт・ペテルブルグにある有名な血の上の教会なのですが、これ実は、写真を切り抜いたものではなく、ペーパークラフトで作る工作キットなのですが、これが驚くほど精巧。難易度は5段階で、ちなみに、血の上の教会は、最高レベルの難易度5！他にも、ソ連製のレトロな自動車、飛行機、建築物シリーズには、世界遺産のキジー島の教会群などがある。そして、この工作キットの凄いところは、はさみも糊も一切使わないところ。全て、折り曲げたり、差し込んだりして作り上げていく。「かさばらない」、「重くない」、「マトリョーシカにはもう飽きた」、「なにかオリジナリティ溢れるお土産が欲しい」という方にはお勧めです！「ドーム・クニーギ」などで絶賛販売中。
<http://www.umbum.ru>



ビールのおつまみに。



暑い夏、自宅に帰ってビールで一杯。そんな時、おつまみはどうされていますか？ロシアには、ポテトチップの代わりに、スハリキというスナックがあります。元々は、家庭で余ったパンを油で揚げて、スメタナやケチャップ等をつけて食べるのですが、これは一般のスーパーで市販されています。一袋50円前後です。写真は、スメタナ味。他にも、イクラ味、サラミ味、バーベキュー味などがあります。日本でも、フライパンに油をたっぷり目にいれ、小さく刻んだパンを入れれば簡単に作ることが出来ます。お好みに合わせて、ニンニクやチーズ等々を入れると変化がつかます。ちなみにパワーアップ版スハリキは、グレンキという別名があります。ただし、結構、高カロリーなので、食べ過ぎにはご注意ください。

カプレッティ(イタリアンレストラン)



もはや、向かうところ敵なしといった感じのGINZA PROJECTグループですが、イタリアンレストラン『カプレッティ』が、 Санкт・ペテルブルグのペトログラーツカヤにオープンしています。カジュアル雰囲気が良く、イタリア人シェフに加え、フロアマネジャーまでもイタリア人を投入しており、食事をしていると、明るい声で、「ボンジョルノ！」と声をかけてきます。『カプレッティ』は、GINZA PROJECTにしては、比較的リーズナブルな料金で、本場の味を楽しめるところが最大の売り。ピザは、オリジナルの石釜で焼かれ、パスタも手打ち。インテリアはイタリアから輸入したアンティーク調なので、椅子に至っては、ほぼ全てが異なるものが置かれているので、見ているだけでも面白いです。詳しくは、GINZA PROJECTのサイトにて→<http://www.ginzaproject.ru/>

編集後記 from ST.Petersburg

つい数ヶ月前の冬には、100数十年ぶりの豪雪と言われ、連日マイナス20度が続いた Санкт・ペテルブルグ。今度は、これまた百数十年ぶりという猛暑に見舞われている Санкт・ペテルブルグとその他のロシア地方都市多数。まだ、駐在3年目に突入したばかりなのに、随分と特別なお天気に縁があるようです。。さて、観光としては少々暑すぎるものの、好天が続いていおります。日本からの団体観光客のみならず、ご様子も頻繁にお見かけするようになりました。比較的年齢層の高いご参加者が多いのですが、時折、スリに狙われている様子を目の当たりにすることもあります。新生ロシアが誕生してから約20年が経過し、経済的にも精神的にも豊かになってまいりましたが、やはり、頭の片隅には「自分は狙われているかもしれない」という警戒心を持っているべきなのだと改めて肝に銘じた次第です。
 Санкт・ペテルブルグ郊外にあるピョートル宮殿の噴水庭園がとても美しい季節となりました。是非一度、足をお運びください。